

(臨床研究に関する公開情報)

江南厚生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

手根管症候群における手術側別の治療成績の検討

[研究責任者]

江南厚生病院 リハビリテーション室 作業療法士 北山淳一

[研究の概要]

手根管症候群（以下 CTS）は最も頻度の高い絞扼性神経障害として知られている。症状として正中神経領域に一致するしびれ感や夜間痛、母指球筋の筋力低下や萎縮などが挙げられます。手術療法としては直視下及び鏡視下での手根管開放術があり、いずれも70～90%で良好な症状改善が報告されています。また、手根管症候群は利き手に頻繁に発生し、両側例も多いとされています。治療成績において手術側が利き手か非利き手かについて検討した報告は渉猟した限りでは認めませんでした。手の外傷における報告では、利き手手術側の方が有意に握力や DASH の改善を認める報告などがあり、手根管症候群術後においても手術側が利き手か非利き手かは治療成績に影響する要因の一つであると考え、本研究を行う予定です。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2020年4月1日から2022年3月31日の間に当院にて手根管症候群の手術を受けられ、電子カルテにて手術から1年後までの経過が確認できる方

●利用するカルテ情報

年齢、性別、利き手、重症度、握力、ピンチ力、Semmes Weinstein Monofilament test、Hand20、CTSI、満足度のNRS 等

[個人情報の取扱い]

この研究では、お名前、住所など、患者さんの直接特定できる個人情報は使用しません。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は

利用しません。

[問い合わせ先]

●研究責任者：江南厚生病院 リハビリテーション室 作業療法士 北山淳一

電話 0587-51-3333